

令和5年度第1回地域まちづくり推進委員会連絡協議会 意見交換内容まとめ

令和5年5月18日、各地域の地域まちづくり推進委員会の会長・委員長で構成する地域まちづくり推進委員会連絡協議会において、地域まちづくりに関する3テーマで意見交換を実施した。内容は以下のとおり。

○テーマ①「部会員を増やし、各部会が意欲的に活動できる方法」

進行(ファシリテーター)・発表	相徳会長(大塚台)
メンバー	大宮、青島、生目、北、佐土原、那珂、高岡、加納
発表内容	<p>【出た意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ いかにも人を集めるか、常に考えている。 ・ 高齢化し、高齢者が中心にならざるを得ない。若い世代に参加してもらえるよう土日の活動を意識した組み立てや、会議を可能な限り、夜間に開催したりしている。それにより、若い世代の参加が少し見られるようになった。 ・ 地区社協との連携が不足している。 ・ 自治会役員が1～2年で変わる中で、認知や意識醸成は難しい。(物事が分かった頃には居なくなる) ・ 行政の理解が不足している(地域まちづくり推進委員会を知らない職員もいるので教育してほしい) ・ まちづくりに市職員が協力するようにしてはどうか。 ・ 青島は住民が少ないが、若い移住者が多い。若者の意見を取り込んで、成果が出てきている。 ・ 青島では移住者が増え、空き家は減ってきたものの、自治会に入らない問題がある。そのため、移住者との意見交換会の機会を設けることから始めないといけない。 ・ 若者を集めるのに、子どもに無料の景品を出すなどしているが、来る人は固定化しており、新しい人の参加にはつながっていない。 ・ ボランティアで頑張っている人にお礼(活動費)を出してはどうか。 ・ 地域の特産品を販売していく活動をやっていくのも大事。地域の人が目を向けるのではないか。 ・ 那珂では、グラウンドゴルフ大会に小学生も参加できる仕組みへ変えた。 <p>【まとめ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 現役世代が参加し易いように、事業の実施日を土日に行ったり、会議を夜間に開催するなどの工夫を行っている。 ・ ボランティアだけの活動は難しいため、有償での活動も考慮に入れたい。 ・ 景品の無料配布を組み込んだ事業やイベント事業では、一時的に人は集まるが、活動者へと変化していかない。 ・ 行政職員の積極的な関わりが必要。

○テーマ②「活発な活動を持続させていくにはどうしたらよいか」

進行（ファシリテーター）・発表	松竹会長（檜）
メンバー	小戸、大淀、小松台、木花、住吉、広瀬、生目台、田野
発表内容	<p>【出た意見】</p> <p>課題①～⑦に対する解決策</p> <p>①認知度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ マスコミへの周知 ・ 自分たちの自己満足で終わらないように、広報紙配布対象も考えていかなければいけない。 ・ 市の広報に関して、地域まちづくり推進委員会の活動について取り上げ方が貧しい。HP での発信だけでなく、広報紙にも掲載してほしい。 <p>②子どもを意識した企画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもと一緒に企画する。 ・ 田野はキッズ会員の募集をしている ・ 生目台は高知市の「こうちこどもファンド」を視察した。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>※「こうちこどもファンド」とは 高知市子どもまちづくり基金を積み立てて、その基金を原資として子どもたちの自発的な活動を支援する制度。事業提案だけでなく、審査にも子どもが参加している。（上限 20 万／助成率 100%）</p> </div> <p>③財源（無償ボランティアはどうか）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自主財源確保を検討していく時期にきていると思う。 ・ 一律ではなく、ポイント制のような形で、有効な活動をするところに補助金を追加交付するといった検討も必要では。 ・ 法人化して財源を確保していく。 <p>④人材</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 現在、積極的な募集が足りてないのではないか。 ・ 連絡協議会で先進地視察や研修を行いたい。 <p>⑤事務作業の簡略化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 資料作成等、事務局の負担が大きい。変更計画など効率よくしてほしい。地域協議会の承認も大変。 <p>⑥活動する人たちのスキルアップも必要</p> <p>⑦様々な団体との交流も大事</p> <p>【まとめ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 持続的な活動のためには、子どもを意識し、子どもを活動に参画させていくことが大事。 ・ 地域まちづくり推進委員会も自主財源確保を検討する時期にきている。交付基準の見直し、地域まちづくり推進委員会の法人化等について検討していきたい。 ・ もっと積極的に人材募集をしていくべき。 ・ 交付金の交付システムを簡略化してほしい。

○テーマ③「地域ニーズへの対応や地域課題解決について」

進行（ファシリテーター）・発表	根井会長（広瀬西）
メンバー	中央東、中央西、東大宮、大塚、赤江、本郷、広瀬北、清武
発表内容	<p>【出た意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政で考えてほしいのは、R5 年度に新規で地域まちづくり推進委員会の会長・委員長になった方々に趣旨等の説明が欲しい。 ・地域の地形的特色から危険性を把握し、課題解決に繋げている地域もある。 ・地域協議会は何のためにあるのか、地域まちづくり推進委員会との上下関係はどうなのか、という意見が出る地域もある。役割を明確化するように、行政に考えてほしい。 ・自治会と地域まちづくり推進委員会の目指すものの相違点を明確にし、それぞれの目的を達成する必要がある。 ・地域課題解決方法として、学校に協力してもらい、小中学校の生徒を通して情報発信をしている。 ・会長・委員長が積極的に人間関係づくりをすることが大事。 ・地域まちづくり推進委員会、小中学校 PTA、地域事務所と合同会議を行っているところもある。 ・PTA が実働し、地域まちづくり推進委員会がバックアップする形をとっている事例もある。 ・課題把握のために、色々な場所に出向き、能動的に人と接触している。 ・広報紙は「文字」→「写真」に変えることで理解が深まるといった事例がある。 <p>【まとめ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域協議会と地域まちづくり推進委員会、自治会の役割を明確にする必要がある。 ・能動的に様々な場所に出向き、地域住民とコミュニケーションをとることで地域ニーズや地域課題把握ができる。 ・地域まちづくり推進委員会の活動を広く地域に認知してもらうために、文字ではなくビジュアル的に捉えやすいような広報の仕方に変えていくといい。